

みずほマーケット・トピック(2019 年 12 月 20 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

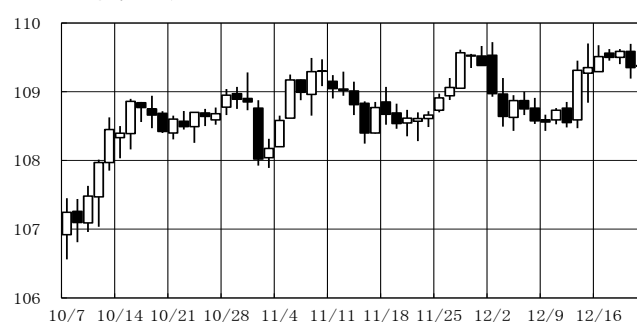
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に値が動く展開。週初 16 日に 109 円台前半でオープンしたドル/円は、先週のイベント以降特段材料なく、米株の堅調推移と米金利の上昇に 109 円台後半まで値を上げた。翌 17 日は、動意に乏しい推移が続いたが、海外時間にユーロ/円やポンド/円の下落を受けじり安の展開となった。18 日も終日動意に乏しい展開。米国時間で米 10 年債利回りが 1.9% 台を回復する動きがあったがドル買いにはつながらず、109 円台半ばでの推移が続いた。19 日は仲値にかけて一時週高値の 109.70 円まで上昇した。その後日銀の政策金利の現状維持の発表や米下院でトランプ米大統領の弾劾訴追が可決されるも、ドル/円への影響は限定的だった。一方、12 月のフィラデルフィア連銀景況指数が予想を大幅に下回り、米 11 月先行指数も予想を下回る結果が続くと米金利が 1.9% を割り込む展開となり、一時週安値の 109.18 円まで下落した。本日は米金利の下げが一服し、109 円台前半での推移が続いている。
- 今週のユーロ/ドル相場は上に往ってこいの展開。週初 18 日に 1.11 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、仏・独 12 月製造業 PMI の結果が予想を下回るも、欧州株の堅調推移に支えられ 1.11 台半ばまで上昇した。17 日はジョンソン英首相が EU 離脱の移行期間延長回避の法改正を進めているとの報道に合意なき離脱懸念が再燃し、ユーロ/ポンドに 1.11 台前半まで連れ安となったが、その後、ユーロ圏 10 月貿易収支の結果が予想を上回るとユーロ買いが優勢となり、一時週高値の 1.1175 まで反発した。18 日は、独 12 月 ifo 企業景況感指数が予想を上回ったことで一時ユーロが買われるも、米金利の上昇に圧迫され、1.11 台前半まで下落した。その後、ロンドン対顧為替レート公示時間にかけて反発するが長続きしなかった。19 日は英国の政策金利据え置き決定の影響で上昇したユーロ/ポンドに一時 1.11 台半ばまで連れ高となったが、利益確定と見られる売りに一時週安値の 1.1107 まで連れ安となった。その後はクリスマス休暇を控える中、狭いレンジで推移した。本日は 1.11 台前半での推移が続いている。

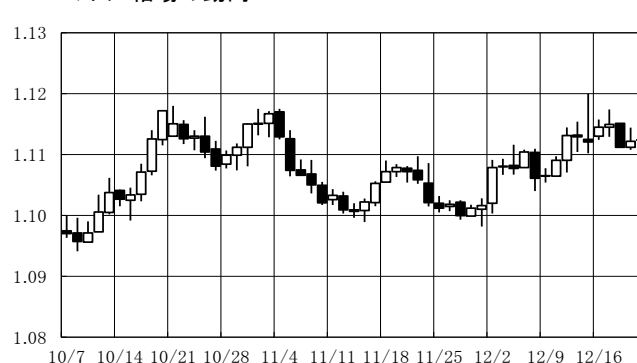
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		12/13(Fri)	12/16(Mon)	12/17(Tue)	12/18(Wed)	12/19(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.40	109.39	109.58	109.52	109.56
	High	109.71	109.68	109.63	109.63	109.70
	Low	109.00	109.27	109.44	109.40	109.18
	NY 17:00	109.35	109.51	109.50	109.59	109.35
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1183	1.1124	1.1137	1.1151	1.1116
	High	1.1200	1.1158	1.1175	1.1154	1.1144
	Low	1.1101	1.1123	1.1129	1.1110	1.1107
	NY 17:00	1.1121	1.1145	1.1150	1.1112	1.1122
ユーロ/円	東京9:00	122.37	121.71	122.03	122.13	121.78
	High	122.65	122.23	122.45	122.14	122.05
	Low	121.37	121.65	121.93	121.76	121.42
	NY 17:00	121.55	122.08	122.05	121.81	121.60
日経平均株価		24,023.10	23,952.35	24,066.12	23,934.43	23,864.85
TOPIX		1,739.98	1,736.87	1,747.20	1,738.40	1,736.11
NYダウ工業株30種平均		28,135.38	28,235.89	28,267.16	28,239.28	28,376.96
NASDAQ		8,734.88	8,814.23	8,823.36	8,827.74	8,887.22
日本10年債		-0.02%	-0.03%	-0.01%	-0.02%	0.01%
米国10年債		1.82%	1.87%	1.87%	1.92%	1.92%
原油価格(WTI)		60.07	60.21	60.94	60.85	61.18
金(NY)		1,481.20	1,480.50	1,480.60	1,478.70	1,484.40

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では23日(月)に11月新築住宅販売件数の発表を予定している。10月は前月比▲0.7%の73.3万件(季節調整済)と小幅に減少した。一方で、在庫件数の減少を受けて在庫月数(在庫件数÷販売件数)は5.3か月と前月の5.5か月から若干縮小した。なお、前年と比較すると今年の住宅市況のトレンド変化は明確で、昨年10月の新築住宅販売は55.7万件、在庫月数は7.2か月となっており、需要サイドの押し上げが強まったことが見て取れる。この背景には、まず米国金利の低下が挙げられ、今年に入り10年債利回りは年初来で最大約120bp低下し、それに付随して住宅ローン金利も低下した。11月時点で30年固定住宅ローン金利が昨年は5%付近であったが、今年は3%台半ばまで減少している。そのほか、失業率の低下も住宅市況活性化をサポートしており、今年の後半についてはほぼ完全雇用の状況まで改善し、家計が住宅を取得するマインドが良化した。一方で、販売価格の中央値については大きな変化なく、前年、今年とも20万ドル～40万ドルの住宅販売が約6割を占めた。需要が底堅い一方で、販売価格に大きな変化なく借入コストも低下が続く状況下、今月についても住宅販売数は堅調に推移し、供給の遅れが改善されれば年明けも緩やかな住宅市況の改善が続くとの見通しが市場では強まっている。
- ・本邦では、27(金)に11月有効求人倍率の発表を控えている。前回10月の結果は1.57倍とほぼ市場予想通りであったが、今年前半(1.6倍台前半)をピークに僅かながら下降トレンドとなっている。さらに、新規求人数を見ると全体で前年同月比▲3.8%の減少となっており、特に製造業では同▲15.6%と9か月連続で減少している。また、製造業の景況感悪化は先週日銀より発表された12月大企業業況判断DI(景況感が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」を引いた値)からも見て取れる。現況の0、および3か月後の業況判断DIが0という結果は、日銀が大規模緩和に踏み切る直前の2013年3月以来の低水準で、製造業にとって米中貿易戦争長期化による外需減速が痛手となっている現状を示す結果となった。一方、非製造業の12月大企業業況判断DIは現況と3か月後でそれぞれ、20、18となっており、前回9月と比較し僅かに悪化したものの、増税による個人消費への影響が懸念される中、依然業況を「良い」と判断する企業が多い結果となった。かかる中、ブルームバーグの予想では、製造業では厳しい状況が続くも、非製造業の雇用状況に後押しされ、前月比横ばいでの推移を見込んでいる

	本 邦	海 外
20日(金)	・11月全国CPI	・米7～9月期GDP(確報)
23日(月)	・10月景気動向指数 ・10月全産業活動指数	・米11月シカゴ連銀全米活動指数 ・米11月新築住宅販売件数
24日(火)	・10日日銀会合議事要旨	・米11月耐久財受注(速報)
25日(水)	—————	・米 休場
26日(木)	・11月住宅着工件数 ・11月建設工事受注	・米12月MBA住宅ローン申請指数 ・米12月新規失業保険申請件数
27日(金)	・11月有効求人倍率 ・11月失業率	—————

【当面の主要行事日程(2020年1月～)】

ECB 政策理事会 (1月23日、3月12日)
日銀金融政策決定会合 (1月20～21日、3月18～19日)
米 FOMC (1月28～29日、3月17～18日)

市場営業部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年12月19日	米大統領選挙の左派リスクは2020年の波乱要因か？
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年11月分)
2019年12月18日	やはり上げを失ったボンド相場～政治も金融もボンドの足枷～
2019年12月17日	日銀金融政策決定会合プレビュー
2019年12月16日	英総選挙を終えて～「次の山」は2020年6月末に～
2019年12月13日	週末版(ECB政策理事会を終えて～フクロウ型総裁の「人となり」～)
2019年12月12日	FOMCを終えて～「タカ派的利下げ」から「ハト派的現状維持」～
2019年12月11日	円の基礎的需給環境～基礎収支に映る変化～
2019年12月10日	道標を失った為替市場～マイナス金利解除がキーに？～
2019年12月9日	英国総選挙の論点整理～事実上、「2度目の国民投票」～
2019年12月6日	週末版(2019年の為替市場を概観する～円は結局強かった～)
2019年12月5日	ECB政策理事会プレビュー～デビュー戦、3つの見どころ～
2019年12月3日	ドイツ政局の流動化について～メルケル退任まであと2年～
2019年12月2日	金融政策に環境配慮は必要か？～制御すべきは気候ではなく物価～
2019年11月29日	週末版
2019年11月26日	円安リスクの点検～「ツケ」が怖い2020年～
2019年11月25日	名目実効為替相場(NEER)で読む2019年のドル相場
2019年11月22日	週末版(ドラギ元総裁、最後のECB政策理事会議事要旨～「結束(unity)」と財政政策～)
2019年11月20日	「ドル化した世界」で進む「金融政策の一本化」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年10月分)
2019年11月19日	ドイツは底打ちしたのか？～リセッション回避も残る不安～
2019年11月18日	「株価の嵐」と「予防的緩和」について考える
2019年11月15日	週末版(ラガルド体制の「overhaul(刷新)」ミッションの行方～総裁会見と投票方式について～)
2019年11月14日	欧州の「弱さ」源泉～輸出拠点が裏目にたドイツ～
2019年11月13日	円高予想の誤算と「ドル化した世界」という悩み
2019年11月12日	動かない相場の背景にある「円の不人気」
2019年11月11日	「公的デジタル通貨 vs. リブラ」の様相に
2019年11月8日	週末版
2019年11月1日	週末版
2019年10月30日	ラガルド新ECB総裁を巡る3つの論点
2019年10月29日	円安リスクの点検～欧州・中国の復調はあるか？～
2019年10月28日	ドラギ総裁最後のECB理事会～危機の「生き字引」～
2019年10月25日	週末版
2019年10月24日	またも史上最小値幅～体感「5円」以下という異例～
2019年10月23日	「リブラ」阻止で一致するG20～ザッカーバーグ証言を前に～
2019年10月21日	思い出したい「10月31日」の経緯～次に起こることは～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年9月分)
2019年10月18日	週末版(2度目の離脱協定案合意～3つの論点を整理～)
2019年10月16日	FRBのTB購入を受けて～欲しかった「ずる賢さ」～
2019年10月11日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～議論紛糾の読み方、議事要旨としては秀逸～)
2019年10月10日	円相場の需給環境について～縮小均衡～
2019年10月9日	FRBの資産購入再開と懐かしのソロスチャート
2019年10月8日	揺らぐリブラ計画～初のメンバー脱退表明を受けて～
2019年10月7日	米9月雇用統計を受けて～「思ったより悪くない」の危うさ～
2019年10月4日	週末版(製造業から非製造業への波及は始まったのか～ISM景気指数の悪化を受けて～)
2019年10月3日	ユーロ圏の物価情勢の現状と展望～日本化の過渡期？～
2019年10月2日	ISM製造業景気指数の「底」は見えそうか？
2019年9月27日	週末版(三度起こった「ドイツの乱」～ラウテンシュレーガーECB理事辞任の読み方～)
2019年9月26日	円安リスクの点検～財政政策というアップサイドリスク～
2019年9月25日	為替相場の現状を概観する～REERを通して見えること～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年8月分)
2019年9月24日	「羊頭狗肉」化するマイナス金利政策
2019年9月20日	週末版(日米金融政策決定会合を受けて～9月乗り切るも日銀の難局は続く～)
2019年9月17日	「原油高&円安」が重荷になる日本経済
2019年9月13日	週末版(ECB政策理事会レビュー～出尽くし懸念強まるパッケージ緩和～)
2019年9月11日	均衡イメージが変わらない円の基礎的需給環境
2019年9月10日	日銀会合プレビュー～9月の一手と利下げの行方～
2019年9月6日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～APP再開は困難だが、露払いはいはしたいところ～)
2019年9月5日	ブレグジットを巡る論点整理～ボンド/ドルは1.20割れ定着か～
2019年9月4日	米企業心理とドル相場の関係～ISM悪化を受けて～
2019年9月3日	リブラを全否定したメルシュ講演～不安はどこに～
2019年9月2日	消えない米国のドル売り介入観測について～諸刃の剣～
2019年8月30日	週末版
2019年8月29日	ユーロ圏投資ファンド統計に見るポートフォリオバランス効果
2019年8月27日	円安リスクの点検～警戒すべきトランプ減税第二弾～
2019年8月26日	円高・ドル高という地合い～105円割れを受けて～
2019年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～9月のパッケージ緩和が濃厚に？～)
2019年8月22日	FOMC議事要旨を受けて～「調整」の誘惑、日銀の経験～
2019年8月21日	ドイツのISバランスは遂に変わるのか？
2019年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年7月分)
2019年8月19日	YCC、捨てる日銀と拾うECB
2019年8月16日	週末版(2019年上半期の対米証券投資について～下期以降の景色は半分変わりそう～)
2019年8月15日	ドイツに引きずられるユーロ圏経済
2019年8月14日	中国の「次の一手」として米国債売却はあるのか？
2019年8月13日	ドル高止まりによる引き締め効果～利上げ17回分？～
2019年8月9日	週末版
2019年8月6日	遂に突破した「1ドル=7.0円」～対抗措置としての元安～
2019年8月5日	米7月雇用統計を受けて～趨勢的な鈍化は明らか～
2019年8月2日	週末版(何の意味もなかったパウエル議長の失言～トランプ関税とインフレ停滞も利下げの理由に～)
2019年8月1日	FOMCを終えて～「1歩譲れば100歩求める」～
2019年7月31日	日銀金融政策決定会合～流行りの「予防的緩和」～
2019年7月30日	円安リスクの点検～英の再国民投票復活などがリスク～
2019年7月29日	ECB政策理事会レビュー～見どころの整理～
2019年7月26日	週末版
2019年7月25日	リブラと金融政策～新興国と信用創造に対する影響～
2019年7月24日	「利下げに囲まれる日銀」と「通貨政策化が進む世界」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年6月分)
2019年7月22日	ECB政策理事会プレビュー～「目標見直し」は大事業～
2019年7月19日	週末版(実質実効為替相場の現状と展望～「ドルは過大評価」とのIMF評価を受けて～)
2019年7月18日	本邦家計部門の金融リテラシーは低いのか？
2019年7月17日	欧米貿易摩擦こそ正當な貿易摩擦という考え方